

2 令和 6 年度の水質概況

令和 6 年度は全体としては降雨に恵まれ、原水水源の水量を確保できたため、節水となる水系はなかった。また、ダムや貯水池での藻類の増殖や降雨による原水の臭気異常等が発生したため、活性炭処理を行った浄水場があった。

(1) 浄水

浄水場浄水池・供給点の全地点について、省令で定める水質基準に適合していた。

(2) 工業用水

全地点について、愛知県工業用水道給水規程に定める水質基準に適合していた。

(3) 原水及び浄水場原水

1) 木曽川(木曽川・長良川)水系

入鹿池は、入鹿池高度利用計画に基づき冬期灌漑用水利用として 10 月から 4 月まで利用されているが、この時期にはフォルミジウムやアナベナ、放線菌によるカビ臭が発生する。今年度もフォルミジウム、アナベナ、放線菌による 2-MIB とジェオスミンが検出された。

愛知池は、春期にウログレナやアステリオネラが増殖しやすく、平成 30 年度以降は冬期にもウログレナがみられるようになった。今年度は例年のウログレナ、アステリオネラが増殖に加えて、秋期にオーラコセイラが増殖した。本種の増殖は平成 20 年度以来である。また、フォルミジウムによる 2-MIB の検出もあった。

佐布里池は、春期にアステリオネラが増殖しやすく、近年は春期と冬期にウログレナがみられるようになった。今年度も例年どおりアステリオネラやウログレナが増殖が確認された。

2) 矢作川水系

矢作ダムは、例年春期にウログレナが増殖があり、今年度も 5 月までウログレナが確認され、豊田浄水場原水で生ぐさ臭が感じられた。

羽布ダムでは、春期にアステリオネラ、夏期にアナベナが増殖している。今年度は夏期にアナベナの増殖により高濃度のジェオスミンが検出され、幸田浄水場原水でもジェオスミンが検出された。なお、アステリオネラの目立った増殖は確認されなかった。

3) 豊川水系

駒場池では、ほぼ 1 年中ウログレナがみられている。今年度も 1 年を通してウログレ

ナが確認され、中でも 4 月と 10 月は生ぐさ臭が強かった。豊川浄水場原水でも生ぐさ臭が感じられた時期があった。また、春期に流入で、豊川用水西部幹線水路の付着性藍藻類が原因と思われるジェオスミンが検出された。過去に流入で生ぐさ臭が感じられたことはあったが、ジェオスミンの検出はまれな事例である。

三ツ口池は冬期にウログレナが増殖することが多く、今年度も同様であり、特に 1 月に生ぐさ臭が強かった。

万場調整池は、近年春期にウログレナ、夏期にアナベナが増殖することが多いが、今年度は 7 月にウログレナが確認された。また、9 月からフォルミジウムとアナベナによるカビ臭の発生があり、10 月には 2-MIB とジェオスミンが共に 100ng/l を超えた。豊橋南部浄水場原水でも高濃度のカビ臭物質が検出され、12 月まで継続した。フォルミジウムとアナベナが同時に増殖し問題になった事例はこれまでに無い。

その他の貯水池については、特に問題となる項目はなかった。

